

社会科の学習評価の検討

—第4学年「自然災害から人々を守る活動」の単元を中心に—

田並 尚恵*1

要 旨

本研究は、社会科の「内容のまとめり」ごとの学習評価の一例として、第4学年「自然災害から人々を守る活動」を取り上げ、学習評価とその基準について検討することにより、実際にどのような評価ができるのかを明らかにすることが目的である。小学校学習指導要領（平成29年告示）において、全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す資質・能力の3つの柱で整理が行われた。それに伴い学習評価も3つの観点から整理されているが、「内容のまとめり」ごとの学習評価については、国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料小学校社会』を参考に作成する必要がある。社会科の学習評価は、知識・技能だけではなく、思考力・判断力・表現力が重要であり、さらに態度も積極的に評価していくことができると考える。

Keywords : 学習評価, 指導と評価の一体化, 初等社会科, 風水害
learning assessment, integration of teaching and assessment, social studies for elementary school student, storm and flood damage

1. はじめに

学習評価は、学校における教育活動に関し、児童の学習状況を評価するものである (p.3) 1)。各教科においては、学習状況を分析的に捉え、学習指導要領に定める目標に準拠した評価として、児童の学習状況を「観点別学習状況の評価」とこれらを総括的に捉える「評定」から評価する (p.3) 1)。平成28年中央教育審議会の答申では、授業評価は、児童生徒の学習状況を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、児童生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにすることが示され 2)、授業評価は学習指導と一体となって実施されることが求められている。

小学校学習指導要領（平成29年告示）では、知・徳・体にわたる「生きる力」を児童に育むために「何のために学ぶのか」という各教科等を学ぶ意義を共有しながら、授業の創意工夫や教材の改善を引き出すことができるよう、全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す資質・能力の3つの柱で整理が行われ (p.6) 1)、これに伴い観点別学習状況の評価が、3つの観点から整理されることとなった。また、各教科の学習評価についても、小学校学習指導要領（平成29年告示）に示された教科の目標から「評価の観点及びその趣旨」に沿って学習評価が整理され、学年ごとの学習評価も整理されている (p.13-14) 1)。ただし、学習指導要領「第

*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉学科

2 各学年の目標及び内容」の「2 内容」については、「内容のまとめり」ごとに育成を目指す資質・能力が示されているものの、これに対応する学習評価基準は、国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料小学校社会』を参考に作成する必要がある（p.14-15）¹⁾。

そこで本研究は、社会科の「内容のまとめり」ごとの学習評価の一例として、第4学年「自然災害から人々を守る活動」を取り上げ、学習評価とその基準について検討することにより実際にどのような評価ができるのかを明らかにしたい。中西によれば、社会科は、社会についての正しい理解とよりよい社会を目指す態度を育成する教科であり、その目標を達成するためには、社会的事象についての知識や、情報を読み解くための技能、これらの知識や技能を使って社会的課題を解決する方法を考える力が必要であるとしている³⁾。そして、解決方法がいくつも考えられる場合には、最良と思われる方法を判断する力が必要であり、その思考や判断の結果を的確に表現する力も求められている³⁾。それには、児童が考え、決める、表明するといった学習活動を取り入れた授業が必要であり、こうした授業で得られた学力がよりよい社会を目指す態度を形成すると考えられる³⁾。そのため、社会科の学習評価は、知識・技能だけではなく、思考力・判断力・表現力が重要であり、さらに態度も積極的に評価していくことができると考える。

2. 学習評価と社会科の学習評価

2.1 学習評価

国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料小学校社会』によれば、観点別学習状況の評価は、以下の通りである。

(1) 「知識・技能」の評価は、各教科等における学習の過程を通じた知識及び技術の習得状況について評価するものである（p.9）¹⁾。また、それらを既存の知識および技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価する（p.9）¹⁾。(2) 「思考・判断・表現」の評価は、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価するものである（p.9）¹⁾。「学びに向かう力、人間性等」のうち、観点別学習状況の評価を通じて見取ることができるのは、(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価である。これは、各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」にかかる観点の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかという意思的な側面を評価するものである（p.9-10）¹⁾。なお、「学びに向かう力、人間性等」の評価については、観点別学習状況では評価しきれない部分（例えば、感性や思いやりなど）がある。これに関しては「個人内評価」として、観点別学習状況の評価の対象外ではあるが、日々の教育活動の中で児童に伝えることが重要とされている（p.8-9）¹⁾。

2.2 社会科の学習評価

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）の目標をふまえ、「評価の観点及びその趣旨」から整理した社会科の学習評価は、以下の通りである（p.13）¹⁾（表 1）。

表 1 評価の観点およびその趣旨（社会科）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめている。	社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとしている。

また、教科と同様に、学年ごとに整理された社会科第 4 学年の学習評価は、以下の通りである（p.14）¹⁾（表 2）。

表 2 学年別の評価の観点およびその趣旨（第 4 学年）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて、人々の生活との関連を踏まえて理解しているとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめている。	地域における社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを表現したりしている。	地域における社会的事象について、地域社会に対する誇りと愛情をもつ地域社会の将来の担い手として、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。

3. 「内容のまとめり」ごとの学習評価

ここでは、国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための

学習評価に関する参考資料『小学校社会』をもとに、第4学年(3)「自然災害から人々を守る活動」として、「風水害から人々を守る活動」の単元を通した目標および評価基準、指導と評価の計画を作成する。

3.1 単元名と内容のまとめ

単元名は、「風水害から人々を守る活動」である。「内容のまとめ」は、小学校学習指導要領(平成29年告示)の社会科第4学年の内容(3)「自然災害から人々を守る活動」に該当する(p.50-51)⁴⁾。

(3) 自然災害から人々を守る活動について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。

(イ) 聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること。

3.2 単元の目標

単元の目標は、以下の通りである。

自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害や関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりしてまとめ、災害から人々を守る活動を捉え、その働きについて考え、表現することを通して、地域の関係機関や人々が自然災害に対し様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し様々な備えをしていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に地域社会の一員として自分たちにできることを考えようとする態度を養う⁵⁾。

3.3 単元の評価基準

国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料『小学校社会』』によれば、単元の評価基準の作成は、(1) 知識・技能、(2) 思考・判断・表現、(3) 主体的に学習に取り組む態度の3つの観点から、以下が重要なポイントとして示されている(p.36)¹⁾。(1) 知識・技能については、①調べて、必要な情報を集め、読み取り、社会的事象の様子について具体的に理解しているか、②調べたことを文などにまとめ、社会的事象の特色や意味などを理解しているか、という点である(p.36)¹⁾。(2) 思考・判断・表現については、①社会的事象に着目して、問いを見だし、社会的事象の様子について考え表現しているか、②比較・関連付け・総合などして社会的事象の特色や意味を考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現しているか、という点である(p.36-37)¹⁾。(3) 主体的に学習に取り組む態度については、①

社会的事象について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究・解決しようとしているか、②よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしているか、という点である（p.37）¹⁾。これらの観点から、当該単元の評価基準を作成したのが、表3である。作成にあたっては、3つの観点の評価基準の重要なポイントとして示された2点が明確になるようにした。

表3 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などについて、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。</p> <p>②調べたことを年表や図表、文などにまとめ、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。</p>	<p>①過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、問いを見いだし、災害から人々を守る活動について考え表現している。</p> <p>②自然災害が発生した際の被害状況と災害から人々を守る活動を関連付けて県内の人々の生命や財産を守るなど、それらの活動の働きを考えたり、学習したことを基に、災害が起きたときに自分自身の安全を守るための行動の仕方を考えたり、自分たちにできる自然災害への備えを選択・判断したりして表現している。</p>	<p>①地域で起こる自然災害について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。</p> <p>②学習したことを基に自然災害に備えて自分たちにできることを考えようとしている。</p>

3.4 指導と評価の計画（全12時間）

前述した単元の評価基準をもとに、指導と評価の計画を作成した。学習過程は、「学習問題をつかむ」を1～2時、「学習問題を追究する」を3～8時、「まとめる」を9～12時とした。指導と評価の計画は、表4の通りである。

表4 指導と評価の計画（全12時間）

時	ねらい	主な学習活動・内容	資料	評価基準
1	風水害への備えの学習について意欲をもつ。	○第3学年の総合的な学習の時間で使用した「防災安全マップ」で避難経路を確認する。 ○災害への備えとして、避難するときに必要な持ち物について話し合う。	<input type="checkbox"/> 「防災安全マップ」 <input type="checkbox"/> ハザードマップ <input type="checkbox"/> 「風水害への備えを考える」ワークシート	風水害の備えについて関心を持ち、意欲的に考えようとしている。 【態-①】
2	風水害の被害の様子を調べ、風水害から自分たちの命や暮らしを守る取組みについての学習問題をつくる。	○中国地方自然災害記録年表から、岡山県の風水害の被害状況を確認する。 ○動画や写真を基に、話し合い、学習問題をつくる。	<input type="checkbox"/> 中国地方自然災害記録年表 <input type="checkbox"/> 岡山県の自然災害に関する動画、写真	過去に発生した地域の自然災害について年表で調べ、必要な情報を集め、読み取ることができている。 【知-①】 風水害から自分たちの命や暮らしを守るための関係機関や地域の人々の取組みに着目して、学習問題を見出している。【思-①】
	風水害から自分たちの命や暮らしを守るために、だれが、どのような取組みをしているのだろうか。			
3 4	風水害から自分たちの命や暮らしを守るための活動について、自助、公助、共助の立場から考える。	○風水害から私たちの命や暮らしを守るために、誰がどのような取組みをしているのか、自助、共助、公助それぞれの視点から予想する。 ○予想を検証するための計画を立てる。	<input type="checkbox"/> 教科書 <input type="checkbox"/> 副読本 <input type="checkbox"/> ノート <input type="checkbox"/> 自治体や国のホームページ	自助、共助、公助の視点から風水害から自分たちの命や暮らしを守るための活動が理解できている。【知-①】 風水害から自分たちの命や暮らしを守るための取組みについて予想を立て、それを検証するための計画を考え、表現することができている。 【思-①】

5	風水害に対する取り組みや備えについて、自助の視点から調べてまとめる。	○家族にインタビューをして聞き取った内容をまとめる。	<input type="checkbox"/> 教科書 <input type="checkbox"/> 副読本 <input type="checkbox"/> ノート	風水害から自分たちの命や暮らしを守るための自助の取り組みについて調べ、理解できている。 【知－①】
6	風水害に対する取り組みや備えについて、共助や公助の視点から調べてまとめる。	○グループに分かれて、地域やボランティアの取り組み（共助）、県や市の取り組み（公助）について調べる。 ○共助グループは、自主防災組織や災害ボランティア活動について、資料を集めて調べる。 ○公助グループは、県や市の取り組みについて、さらに、国や自衛隊の取り組みについても資料を集めて調べる。	<input type="checkbox"/> 教科書 <input type="checkbox"/> 副読本 <input type="checkbox"/> ノート <input type="checkbox"/> 自治体や国のホームページ <input type="checkbox"/> 自主防災活動の手引き <input type="checkbox"/> 市区町村社会福祉協議会ホームページ	資料を活用して、風水害に対して関係機関や地域の人々がどのような取り組みをしているのか、また、どのような備えをしているのかを捉えることができている。 【知－②】 関係機関や地域の人々の取り組みと備えについて、調べた内容をまとめ、それを表現することができている。 【思－①】
7	風水害に対する取り組みと備えについて、共助の視点から調べ、まとめる。	○自主防災組織の方や社会福祉協議会の職員をゲスト・ティーチャーに招き、災害対応や備えについて話を聞く。	<input type="checkbox"/> 教科書 <input type="checkbox"/> 副読本 <input type="checkbox"/> ノート <input type="checkbox"/> 自主防災組織の手引き	地域の人々の取り組みと備えについて、聞き取りをした内容をまとめることができている。 【知－②】
8	風水害に対する取り組みと備えについて、公助の視点から、調べ、まとめる。	○市の災害担当者をゲスト・ティーチャーに招き、市の災害対応や備えについて話を聞く。	<input type="checkbox"/> 教科書 <input type="checkbox"/> 副読本 <input type="checkbox"/> ノート <input type="checkbox"/> 自治体の防災計画 <input type="checkbox"/> 避難所の運営	関係機関の取り組みと備えについて、聞き取りをした内容をまとめることができている。 【知－②】

9 10	風水害が発生する前の段階から災害が発生し、その後の災害復旧・復興の過程を時系列にして、自助、共助、公助の視点からまとめて発表する。	○グループで調べた内容を、風水害が発生する前の段階、災害が発生した直後の段階、その後の復旧・復興の段階と時系列的に整理する。 ○学習問題の答えについてポスターにまとめ、発表する。	□これまでに活用してきた資料 □ノート	調べた内容を基に、自助、共助、公助の視点から、風水害への備えを理解し、それを表現することができている。 【思－①】
11	様々な機関や地域の人々の取り組みについて、自分たちで調べたことを振り返り、自分たちにできることを考える。	○調べてきたことを振り返り、さらなる学習問題について考える。	□これまでに活用してきた資料 □振り返りワークシート	これまで学習した内容を基に、災害が起きたときに自分自身の安全を守るための行動の仕方を考えたり、自分たちでできる風水害への備えを選択・判断したりして表現している。 【思－②】 これまで学習した内容を振り返り、さらに調べることを見出し、見通しをもって追究しようとしている。 【態－①】
12	自分たちにできることを考え、表現する。	○自分たちにできることを話し合い、まとめる。	□これまでに活用してきた資料 □ノート	これまで学習した内容を基に、災害が起きたときに自分自身の安全を守るための行動の仕方を考えたり、自分たちでできる風水害への備えを選択・判断したりして表現している。 【思－②】 風水害の発生に備えて自分たちにできることを考えようとしている。 【態－②】

4. 考察

本研究では、以下の点に留意して観点別に学習状況の評価を設定した。

(1) 知識・技能

【知－①】では、知識として自助、共助、公助の視点を理解し、風水害から自分たちの命や暮らしを守るための関係機関や人々の活動を捉えることができているかを評価する。そして、技能として、自然災害記録年表などの資料から、岡山県の災害で最も多いのが風水害による被害であることを読み取りまとめることができるか、そして、家族に聞き取りをすることで、自助の働きについて理解していることを評価する。

【知－②】では、知識として共助・公助を理解した上で、地域の自主防災組織の方や災害ボランティア、そして市の災害担当者から話を聞いたり、自分たちが調べたことを尋ねたりして、関係機関や地域の人々がどのように災害に対処し、備えているのかをまとめることができているかを評価する。

(2) 思考・判断・表現

【思－①】では、動画の視聴や資料の読み取りなどを通して、風水害から自分たちの命や暮らしを守るためにだれが、どのような取組みをしているのかという学習問題を見出すことができているか、学習問題に対して予想を立て、それを表現できているかを評価する。また、関係機関や人々の取組みをまとめ、表現できているかを評価する。

【思－②】では、これまで学習した内容をもとに、災害が起きたときに自分自身の安全を守るための行動の仕方を考えたり、自分たちでできる風水害への備えを選択・判断したりして表現しているかを評価する。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

【態－①】では、風水害の備えについて関心を持ち、意欲的に考えようとしているかを評価する。また、これまで学習した内容を振り返り、さらに調べることを見出し、見通しをもって追究しようとしていることを評価する。

【態－②】では、風水害の発生に備えて自分たちにできることを考えようとしていることを評価する。

5. おわりに

本研究では、社会科の学習評価について、第4学年「自然災害から人々を守る活動」の単元を中心に検討してきた。社会科の学習評価は、知識・技能だけではなく、思考力・判断力・表現力が重要であり、さらに態度も積極的に評価していくことができると考え、多くの場面で評価をしていくことを想定した。評価については、実際に授業で使用し、児童の発言内容やノートの記述内容、年表やインターネットなどで調べたり、聞き取ったりした内容を図表などにまとめていること、などを評価する必要がある。これについては、今後の課題とした。

文 献

- 1) 国立教育政策研究所教育課程研究センター：「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 社会. 5 版, 東洋館出版社, 東京, 2022.
- 2) 中央教育審議会：幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申).
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf, 2016. (2023.9.30 確認).
- 3) 中西仁：社会科とは何か. 中西仁, 小林隆編, 初等社会科教育, ミネルヴァ書房, 京都, 1-15, 2021.
- 4) 文部科学省：小学校学習指導要領 (平成 29 年告示). 日本文教出版社, 大阪, 2018.
- 5) 文部科学省：小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 社会編. 5 版, 日本文教出版社, 大阪, 2018.